



関高進路さくら便り



さくら塾 『都市計画と私たちの暮らし』

9月15日(木)に美濃加茂市役所(土木課・新庁舎整備推進課)の職員の方々をお招きして、美濃加茂市を事例に都市計画と私たちの暮らしがどのように関わるのか、お話をうかがいました。土木の技術者の皆さんのまちづくりに対するプライドが感じられる熱い講演でした。私たちが安心して豊かに暮らしているのは、市民の生活を支え守っている人たちがいるおかげだと実感しました。いろいろな世代の、そして皆さんのような未来を担う若者の意見が、みんなが幸せに暮らせるより素敵なまちの実現につながっています。まちづくりに関して決めるときは、必ず高校生の意見を取り入れているそうですよ。美濃加茂市役所の皆さんの、市民の暮らしを守る使命感と、仕事に対するプライドが、地域に愛される美濃加茂市を作り上げているのだと思います。公務員という仕事のやりがいや魅力も実感できた講演会でした。



■ 都市計画とは

都市計画には、①道路や橋などの土木関係、②上下水道、③防災といった市民の暮らしを守るライフラインの他、④まちの景観、⑤まちを活性化させる企業誘致のプロモーションなど多岐に渡ります。

■ リバーサイドパーク事業

美濃加茂市のアウトドア施設「リバーサイドパーク」に遊びに行ったことのある人もいます。このビッグプロジェクトに携わったのが、美濃加茂市都市計画課の皆さんです。公園には、近隣住民のための近所の公園と、昭和村・アクアト・リバーサイドパークのように、広範囲な公園とがあります。リバーサイドパークは、イベント会場やラフティングなどのアウトドアスポーツ、バーベキューなどが楽しめます。市民の生活をより豊かにするために、「進化し続ける公園」を目指しているそうです。



リバーサイドパークは、「官民連携」の事業です。官民連携はまちづくりではトレンドの方法です。「公」だけの力ではまちづくりはできません。「民」と力を合わせてまちを面白くするのです。

■ いどばた児童公園

井戸端みたいに近隣住民が集まる公園・・・近所にある公園もまちづくりです。近所の住民や自治会とともに作り上げます。病院や保育園が近くにあるのであれば、小さい子どもやお年寄りのための公園を作る。お年寄り用に、背筋を伸ばせるベンチとか健康遊具を設置します。いどばた公園の草刈りは「ヤギさん除草隊」の役目です。「産官学連携」で実現しました。岐阜大学応用生物学部が草の研究を行い、ヤギを飼育している民間業者と美濃加茂市が連携して、除草しにくい公園の斜面の除草をヤギにやってもらうことにしました。除草コストを3分の2に抑えれたことと、二酸化炭素削減にもなり環境にも良し、保育園児や小学生が動物と触れ合うことができ教育的観点からも良しの公園です。



■ 道路を作る

道路を作る目的は3つあります。①人や物の移動のための「交通機能」、②土地利用促進・地域開発の基盤整備・新しい市街地形成などの「土地利用誘導機能」、③電気ガス水のライフラインの収容・災害時の避難路・火災延焼防止・緑化・通風などの「空間機能」です。

■ 水道

蛇口をひねれば水が飲める国は、とても少ないです。美濃加茂市の水は川や井戸の水を浄水場で安全な水に作り替えています。住民の安心安全を守るため365日見守り続けています。

まちづくりの仕事は、未来を見据えた仕事です。市民の生活を守る使命と誇りを持って、お仕事をされています。インフラ整備など市民生活を維持する、市民の快適な憩いの場を提供する、市民の誇りとなるまちづくりを、市民の思いをともに形にする、そんな素敵な仕事です。リバーサイドパークには全国各地から視察にやってくるそうです。美濃加茂市民の皆さんにとって、自慢できる場所ですね。



市役所の仕事は「まちづくり・ものづくり・ひとづくり」。計画、設計、建設、その後まで、すべてを一貫して見守り続けることができる。だからおもしろい。

大雨で河川の氾濫がおきた。自分の判断一つで住民の命、財産を失うかもしれないという危機感、緊張感の中で仕事している。だからその使命感が、やりがいとなっている。



地方国立大学は魅力がいっぱい④

「まちづくり」とかけまして、「まなべる大学」ととく。その心は・・・(今回は理系バージョンです。)

岐阜大学工学部社会基盤工学



★かっこいい橋やダムを作りたい!地図に残る仕事がしたい!

ドボクの王道です。岐阜大学社会基盤工学科で、構造物のことを学ぶだけでなく、デザインのセンスも鍛えましょう。岐阜大学社会基盤工学科は、橋梁や道路などの分野に強い教員が揃っており、さらにキャンパスに実物大の構造物が並ぶインフラミュージアムがあり、実践的な学びが得られます。また、岐阜には多くの歴史的土木構造物があり、実物を見てまなぶにも良い土地です。

★まちづくりに関わりたい!美しく暮らしやすいまちにしたい!

皆さんが日頃から慣れ親しんでいる風景。あるいは旅行で訪れたまちの町並みや景色。それらに感動したことがない方はまずいないでしょう。このような魅力的なまちは、まちをかたちづくる社会基盤(インフラ)、そしてそこで暮らす人々の暮らし方(ライフスタイル)により構成されています。生涯くらしつづけたいまち、何度も訪れたいまち。そのようなまちをデザインするための理論や手続きを学ぶことができます。

★100年に一度の転換期。最新技術を駆使し、快適な移動を実現できる交通システムをデザインしたい!

社会が円滑に機能するためには効率的な交通が不可欠です。社会をヒトにたとえると、「交通」は体中に栄養を運び老廃物を回収する循環器系統といえます。血流が悪いところに体の不調が生じるように、交通の流れが悪い場所は社会にとって問題が生じる場所になります。今、交通は大きな転換期にあり、「第3次モビリティ革命」が生じているといわれています。このような大きな転換期に、交通の都市形成への役割を理解し、皆さんが質の高い生活を送ることができるような交通システムのあり方を学ぶことができます。

★自然環境を守る仕事がしたい。でも職業として何をしたいのかわからない。

自然環境の仕組みを学び、自然環境と調和的な社会をどのように実現していくかは社会基盤工学の大きなテーマです。社会基盤工学科の先にある職業の多くが、自然共生社会の実現に関わる仕事をしています。岐阜大学社会基盤工学科では、気象や地形地質、流域の水環境など、自然環境について深く学ぶことができるとともに、それら自然現象の理解を踏まえた社会のあり方を探求できます。

★自然災害からみんなの生活や命を守りたい!

記録的豪雨や大地震が頻繁に起こるようになってきています。自然災害のことを理解することは、自然の営みである自然現象(気象現象、地震・火山)と、人間社会のもつ脆弱性との関係性を理解することにほかなりません。岐阜大の社会基盤工学科には、自然災害と防災の専門家が沢山います。ともに、地域社会の防災減災力を高めましょう!

★気候変動や人口減少、色々な環境問題、社会問題を解決したい!

社会基盤工学科の多くの学問や研究は、「持続可能な社会」を築くことを目的になされています。とくに、岐阜大の社会基盤工学科には、気候変動への適応や、地域の社会課題の解決に向けて取り組む教員が多く所属しています。

★自分が一体何がしたいのかわかりません・・・

そんなあなたも、どうぞ岐阜大の社会基盤工学科に来てください!やりたいことがきっと見つかります。

